

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会  
2006年春の年会 総会議事  
(2006年3月25日 12時～13時 D会場)

議 事 次 第

1. 部会長挨拶 内田滋夫(放医研)
2. 部会規約について(資料1)
3. 部会の体制について(資料2、資料3)
4. 平成17年度部会決算見込(資料4)
5. 平成18年度部会予算案(資料4)
6. 部会企画について(資料5)
7. ICRP 調査研究連絡報告会について(資料6)
8. 部会主催・共催シンポジウム等について(資料7)
9. 2006年秋の大会以降の部会企画等について(資料8)
10. 学会代議員の推薦について(資料9)
11. 委員会報告(資料10)
12. その他
13. 副部会長挨拶 飯田孝夫(名大) 本間俊充(原子力機構)

以上

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会  
2006年春の年会 総会議事（進行用資料）  
（2006年3月25日 12時～13時 D会場）

議 事 次 第

1. 部会長挨拶 内田滋夫（放医研）
2. 部会規約について（資料1）（担当：高橋）
  - ・部会等運営委員会に関する現行の規約の確認。
3. 部会の体制について（資料2、資料3）（担当：高橋）
  - ・部会役員の確認、事務局の廃止と担当幹事に関する提案。
4. 平成17年度部会決算見込（資料4）（担当：飯本）
  - ・予算の変更点。名簿管理予算の話はここですか、あるいは委員会報告かその他で。
5. 平成18年度部会予算案（資料4）（担当：飯本）
  - ・部会員200人超。分担金の考え方。
6. 部会企画について（資料5）（担当：高橋）
  - ・報告のみ
7. ICRP 調査研究連絡報告会について（資料6）（担当：飯本）
  - ・報告と参加者募集？
8. 部会主催・共催シンポジウム等について（資料7）（担当：高橋）
  - ・報告のみ
9. 2006年秋の大会以降の部会企画等について（資料8）（担当：高橋）
  - ・提案と、次回以降のアイデア募集
10. 学会代議員の推薦について（資料9）（担当：高橋）
  - ・考え方と報告のみ
11. 委員会報告（資料10）（担当：飯本他出席している委員）
12. その他
13. 副部会長挨拶 飯田孝夫（名大） 本間俊充（原子力機構）

以上

## 部会規約について

### 保健物理・環境科学部会規約

---

(2000年1月27日 第419回理事会承認)

(2004年11月26日 第468回理事会改定)

専門分野別研究部会規程(規定第11号)により、保健物理・環境科学部会を本規程により設置運営する。

#### (目的)

第1条 保健物理・環境科学部会(以下本部会)は、原子力に関連した保健物理・環境科学分野の研究者間の研究交流と情報交換を積極的に行うとともに研究活動を支援し、その発展に貢献することを目的とする。

#### (部会員)

第2条 学会正会員および学生会員は本部会員となる資格を有する。

第3条 本部会に参加を希望する会員は、所定の事項を記入した入会申込書に部会費を添えて、事務局に申し出る。なお、退会の際はその旨を事務局に通知する。

#### (運営費、部会費)

第4条 本部会の運営費には、部会配付金、事業収入、寄付その他をもってあてる。

第5条 運営費については、企画委員会を経て理事会に報告し、その承認を得ることとする。

#### (総会)

第6条 総会を年1回以上開催し、本部会の事業、予算、運営等重要事項について承認を得るものとする。

#### (運営)

第7条 本部会の運営は、学会正会員の本部会員より選ばれた部会長1名、副部会長2名および委員若干名からなる運営委員会が行う。経常的な運営は部会長、副部会長および委員の中から選ばれた幹事若干名からなる常任委員会が専ら行うが、重要な事項については運営委員会の議を経て行うこととする。運営委員の任期、選考方法などは別に定める。

第8条 事業の実施のため、運営委員会のもとに小委員会を設けることができる。

#### (事業)

第9条 本部会は次の事業を行う。

- ( 1 ) 本部会の活動や研究関連の情報を提供するためのニュースレターを随時発行する。
- ( 2 ) 研究会、セミナー、講演会、講習会、見学会等を適宜開催する。
- ( 3 ) 必要に応じて、研究、調査及び評価等のための小委員会を組織し、研究者間の交流と関連分野の研究活動を活性化する。
- ( 4 ) 関連する研究専門委員会、特別専門委員会等の活動を積極的に支援する。
- ( 5 ) 関連する国内外の学協会、諸機関との共催による研究集会の企画、実施を行い、国内および国外協力研究を積極的に進める。
- ( 6 ) その他、適切な事業は随時、実施する。

( 変更 )

第 1 0 条 本規約の変更は、運営委員会の発議に基づき、総会での承認を要する。

注：第 5 条の企画委員会は、部会等運営委員会と読み替える。

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会  
第 3 期 (2004 ~ 2005 年度) 委員名簿

## 【役員】

部会長 ; 内田滋夫 (放医研)  
副部会長; 飯田孝夫 (名大)  
副部会長; 本間俊充 (原研)  
会計監査; 宮崎振一郎 (関電)

## 【運営委員】24 名 幹事 12 名

天野光 (原子力機構) 飯田孝夫 (名大) 生瀬博之 (三菱マテリアル)  
植頭康裕 (原子力機構) 内田滋夫 (放医研) 占部逸正 (福山大)  
小川喜弘 (近大) 金子正人 (放影協) 木名瀬栄 (原子力機構)  
小佐古敏荘 (東大) 下道国 (藤田保健衛生大) 杉浦紳之 (近大)  
塚田祥文 (環境科研) 外川織彦 (原子力機構) 服部隆利 (電中研)  
福井正美 (京大) 二ツ川章二 (RI 協会) 本間俊充 (原子力機構)  
三浦太一 (高工研) 宮崎振一郎 (関電) 山澤弘実 (名大)  
山西弘城 (核融合研) 山本英明 (原子力機構) 米原英典 (放医研)

## 【事務局】

高橋知之 (京大) 飯本武志 (東大)

## 【学会委員】

部会等運営委員	杉浦紳之 (近大)	2004 ~ 2006 年度
学会誌編集委員	山本英明 (原研)	2003 ~ 2005 年度
	服部隆利 (電中研)	2004 ~ 2006 年度
	米原英典 (放医研)	2004 ~ 2006 年度
学会プログラム委員	山西弘城 (核融合研)	2002 ~ 2004 年度 ( ~ 2005 年秋 )
	植頭康裕 (サイクル機構)	2005 ~ 2007 年度 (2006 年春 ~ )
	木名瀬栄 (原研)	2005 ~ 2007 年度 (2006 年春 ~ )
日韓サマースクール運営連絡会担当		
	飯本武志 (東大)	2005 ~ 未定

部会内規第 6 条に基づく部会長、副部会長及び運営委員の選任方法  
(第 4 回総会にて採択)について

1. 改選の考え方

運営委員会における審議の継続性を考え、第 3 期運営委員の半数程度を再任とする。

また、学会委員(部会等運営委員、学会誌編集委員、プログラム委員)の任期が継続している運営委員を再任とする。

2. 手続き

運営委員会にて第 4 期で再任となる委員を決定

部会員より、第 4 期新規運営委員の立候補者、推薦者を募集

新規及び再任運営委員の信任投票 封書または E-mail にて

全部会員の過半数の反対で不信任(それ以外はすべて信任 = 定員なし)

新旧合同運営委員会にて第 3 期部会長及び副部会長、会計監査を選任

2006 年春の年会部会総会にて第 4 期部会長、副部会長、運営委員及び会計監査を承認

第 4 期部会長と副部会長の協議により、幹事を選任

第 4 期(平成 18 ~ 19 年度)保健物理・環境科学部会  
運営委員会委員(確定) アンダーラインは学会委員

飯田孝夫(名大)、飯本武志(東大)、植頭康裕(原子力機構)、内田滋夫(放医研)  
占部逸正(福山大)、木名瀬栄(原子力機構)、小嵐淳(原子力機構)、小佐古敏荘(東大)  
杉浦紳之(近大)、高橋知之(京大)、塚田祥文(環境科研)、外川織彦(原子力機構)  
服部隆利(電中研)、本間俊充(原子力機構)、三浦太一(高工研)、宮崎振一郎(関電)  
百瀬琢磨(原子力機構)、山澤弘実(名大)、山西弘城(核融合研)、米原英典(放医研)

【総会承認事項】

部会長 候補; 飯田孝夫(名大)

副部会長候補; 本間俊充(原子力機構)

副部会長候補; 占部逸正(福山大)

会計監査候補; ( )

## 部会企画について

### 2005 年秋の大会

総合講演(保健物理・環境科学部会)

「原子力施設の環境影響評価における不確実性」(9月14日(木) 16:00~18:30)

講演 : 座長:京都大学 高橋知之

講演1「環境影響の不確かさ・感度解析」

日本原子力研究所 本間俊充

講演2「放射性廃棄物処分の環境影響評価における不確実性」

日本原子力研究所 木村英雄

講演3「一般重金属の土壌含有量基準に見る不確実性とその問題点」

京都大学 米田 稔

講演4「環境移行パラメータの不確実性」

環境科学技術研究所 塚田祥文

総合討論 : 座長:名古屋大学 飯田孝夫

### 2006 春の年会

企画セッション(保健物理・環境科学部会)

「東アジア地域の総合的な放射線・放射能監視システムの構築」(3月25日(土) 10:00~12:00)

講演 : 座長:名古屋大学 飯田孝夫

講演1 日本海におけるロシアの廃棄物投棄及び原子力潜水艦の臨界事故

日本原子力研究開発機構 外川織彦

講演2 小型核兵器・放射性物質によるテロ

札幌医科大学 高田 純

講演3 東アジアの原子力開発の現状と日本の広域モニタリングの必要性

名古屋大学 飯田孝夫

総合討論: パネリスト:上記講演者3名

部会主催・共催シンポジウム等について

1) 保物セミナー2005

開催日：2005年10月24日～25日

場 所：大阪科学技術センター

主 催：保物セミナー2005 実行委員会

2) 第7回「環境放射能」研究会

開催日：2006年3月7日～9日

場 所：高エネルギー加速器研究機構

主 催：高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター



2006 年秋の大会以降の部会企画行事等について

「C-14 の環境中移行研究の現状と今後の展開（仮）」

主催：保健物理・環境科学部会

趣旨（案）：

C-14 は原子力施設や放射性廃棄物処分施設の環境影響評価において極めて重要な核種の一つである。しかし、C-14 は天然に多く存在する炭素の同位体であり、その挙動は一般の元素と大きく異なる。このため、C-14 に関する施設の安全評価においては、モデル及びパラメータについて非常に保守的な仮定を用いて評価する場合が多い。

近年、C-14 の環境動態を解明するための研究が国内のいくつかの研究機関や大学で行われている。本企画では、C-14 の環境動態に関する研究を行っている研究者が、研究の現状と今後の展開について報告、意見交換することにより、各研究機関における研究の進展に寄与するとともに、我が国における C-14 の環境動態研究者間のネットワークの構築に寄与することを目的とする。

時間 120 分（講演 4 件各 20 分、討論 40 分）

以上